

湘北短大 ○木田雪子 東京家政大 神田和子 東京農工大 木下隆肥路

目的 和服の衿肩明き及び繰越し寸法について検討して意味づけを明確にし、新しい採寸方法を提案した。採寸方法は着用時の衿が第7頸椎点から d_1 離れた点(下り寸法)と、頸付根点から肩山線上に d_2 離れた点を基準点に定めている。 d_1 、 d_2 は着る人が自由に選定できる寸法であるが、体型、着物の種類等によってきめるべき寸法である。今回は下り寸法 d_1 を固定した場合、パネラーによって、もっとも好まれる離れ寸法 d_2 、即ち上り衿肩明き寸法を官能検査によって見出すことを目的としている。

方法 頸付根囲寸法33.2 cm (A)と、40.5 cm (B)の2人のモデルについて下り寸法 d_1 を固定して、離れ寸法 d_2 を5 mmごとに変えて上り衿肩明き及び上り繰越し寸法を採寸し、1人について6枚の浴衣を縫製した。これらを規定の d_1 、 d_2 にしてモデルに着装させ、背面より撮影し、一定倍率で写真を作成した。和裁関係の先生と、学生を対称にして一対比較法で官能検査を行なった。ケンタルの一意性の係数による判断能力を有するパネラーのデータについて統計的に処理した。

結果 6組の一対比較法のために、一巡三角形が一個あれば判断能力が無いと判定される。Aモデルに対しては、多くのパネラーの中で先生方は6割、学生は3割が官能検査の適格者であった。Aは上り衿肩明き寸法77 mm、上り繰越し寸法30 mmが一対比較法でも、順位でも、もっとも好まれた寸法であった。モデルBについては、判断能力があるパネラーは先生方が4割、学生は皆無であった。したがってBについては更に官能検査を重ねて結論を導きたい。